

おわりに

本書は「極意」とタイトルされているわりには、入門的な部分の話が多くなっています。しかしながら、私は「入門」の中にこそ、「極意」が存在していると信じています。

今これを書いているのは、サッカーワールドカップ・ブラジル大会が始まったばかりの時期（今日、日本が初戦でコートジボワールに負けた！）ですが、この前テレビを観ていたなら、スペイン代表シャビ選手の脳を分析するという特集をやったんですね。そこでシャビ選手は、「一流サッカー選手は、みな頭が良い。頭が悪くて、サッカーはできない」的なことを言っていて、番組は彼の頭のどこがどう優れているのかを分析していたわけです。

結論としては、空間認知能力を筆頭として、まあ全部優れているんだけど、前頭前野（主に理性を司る部分）よりも脳幹部（脳の奥）を働かせているということでした（なるほどね、黒沢先生の脳だね）。

シャビ選手って、バルセロナにあるサッカー「虎の穴」みたいなところに小さい頃から

所属していた人ですが、「虎の穴」って若い読者に通じるのかな？ えっとお、「タイガーマスク」っていう漫画があつてえ、そこに出てくる最強プロレスラー養成のための秘密組織のこと）、そこで「周りを見る、そして周りの次の次のプレーを予測しろ」って徹底的に指導されたらいいんですね。これがシャビ選手のサッカーの「極意」になっているわけです。でもそれって彼が「虎の穴」みたいなところに入門した当時に叩き込まれたことなんですね。

「極意」と「基本」というのは、ほぼ同義です。「基本」ができていなくて、「極意」の領域に達することは決してありません。また「極意」の領域に達したときというのは、たいして「これが基本だったんだ！」ということを知ったときのことなのです。本書全体を通して、このことが皆さんに少しでも伝わればいいなと思っています。

ほんの森出版の小林さんには、本当にいつもお世話になっております。今まで何冊も本と一緒につくらせていただきましたが、本書制作は結構楽チンでしたよね。これからも一緒に楽しく本づくりしていけることを、心から願っております。

二〇一四年六月一五日

KIDSにて 森 俊夫